















東急子ども応援プログラム



2023年度(第3回) 完了報告書















2023年度(第3回) 東急子ども応援プログラムを終えて

ごあいさつ

東急子ども応援プログラムは、子どもたちやその家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりをサポートする市民団体の活動を助成するプログラムとして、2020年7月にスタートしました。東急線沿線地域で行われる活動を公募・選考させていただき、1年間の活動に助成します。

当社は地域の皆さまと共にまちづくりを推進し、存在理念には「美しい生活環境を創造し、調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する」と掲げています。子どもたちを取り巻く課題が複雑化する一方で、そこに向き合う市民活動も活発になっている今、当社も地域社会の一員として、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながる活動を応援したいと考えています。引き続きご支援いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

東急株式会社 東急子ども応援プログラム事務局

2023年度選考にあたって 選考委員長の選後総評より

選考にあたって、今回議論となったのは、団体の本来行っている活動内容そのままの申請をどう評価するかである。たしかに募集要項にはその点の記載がない。また欧米の国々にみるように「新しい公共」の担い手として経済的にも自立するNPOが少ない事情がある。米国では、経済的雇用に十数%をNPOが占める活力が生まれているのに対して、NPO法が制定されてから四半世紀が経とうとしている中、失われた30年といわれるわが国では、経済のみではなく制度や社会の仕組みもその様を呈している。よって、本助成は継続でも2年という限界があるので、この助成を契機にそれぞれが子どもを支える活動としてさらに飛躍されることが期待され、その期待に応えられるかどうかが判断の分かれ目となる。

もちろん選考基準の趣旨に適合しているか、子どもの視点などで評価した上であるが、それぞれ課題とする 事柄も、また背景の分野もアプローチも異なるので、同一基準で判断することがなかなか難しい。3回目とも なると申請書の書き方もレベルがあがり、甲乙つけ難い。それを限られた枠内に選び出すのは選考委員の頭を 悩ますところである。推薦が多く一致した場合は良いが、分かれた場合は推薦した委員の意見、推薦しない委 員の意見も聞いて、熟議の上、判断に至った。

2023年度はこども基本法が施行され、こども家庭庁の新しい体制で、子ども関連予算増額という。国もようやく子どもに目を向けはじめた。しかし少子化対策が中心で、子どもを当事者として子ども主体の施策がどう展開できるかは未知数である。というのは子どもの生活圏は地域であり、国のスケールとはあまりに離れている。欧米では地域での多様な展開にNPO等の市民団体の活躍がある。真に子どもが幸せになり、未来に希望が持てる社会になるよう、そして将来の社会を引き継ぐ人材が育つためにも、子どもに身近な地域で子ども支援に活躍する市民が増えることが大事であり、この助成がその一助となれば幸いである。

木下 勇

大妻女子大学 教授/千葉大学 名誉教授・グランドフェロー

	四下在外ODEIII			
助成対象活動 (13件1,250万円助成)	団体名	代表者	助成対象 活動エリア	助成金額
青葉台みらいクラブ	NPO法人 あおば学校支援ネットワーク (★)	理事長 竹本 靖代	横浜市 青葉区	100万円
〜生きづらさを自分らしく生きる力に〜 未来まちづくりプロジェクト	認定NPO法人 キーパーソン21	代表理事 朝山 敦子	川崎市 中原区、高津区	100万円
子どもの『非認知能力』育成フィールド 「街の小さな自然つくり」	NPO法人 グリーンフィールド	理事長 陰山 淳子	品川区	97万円
放課後フリースペース「まい す ペ〜す」、 子育てひろば(赤ちゃんひろば)	NPO法人 こあら村 - <u>P8</u>	理事長 嶋田 朝子	大田区	100万円
地域で多様な子どもと若者が ともに育ち合う場づくり	認定NPO法人 CFFジャパン -P9	代表理事 安部 光彦	世田谷区	99万円
子ども多文化交流事業	NPO法人 Sharing Caring Culture 210	代表理事 三坂 慶子	横浜市 都筑区、青葉区、 港北区	79万円
キッズディレクター (楽しいデジタルコンテンツ制作と 居場所づくり) ▶ <u>•</u>	NPO法人 ちいき未来(★) *11	理事長 江口 慎一郎	横浜市 神奈川区、 西区、中区、青葉区 川崎市 中原区、 宮前区	79万円
障害のある子もない子も一緒に。 目と手で喋ろう!音で作ろう! 耳で見て語らおう!! ▶	一般社団法人 DRIFTERS INTERNATIONAL 212	代表理事 横山 香	大田区、渋谷区	100万円
横浜インターナショナル ユースフォトプロジェクト ▶ <u>I</u>	Picture This Japan(★)	代表 大藪 順子	横浜市 中区	100万円
子どものための神奈川面会交流促進事業	一般社団法人 びじっと・ 離婚と子ども問題支援センター	代表理事 古市 理奈	神奈川県	100万円
みっけ!愉快な音楽・畑くらぶ: 子どもの五感を育むプロジェクト ▶	愉音(★) 215	代表 松本 有理江	横浜市 青葉区、都筑区 町田市	100万円
生命にかかわる子どもと家族に 豊かな時間を届ける ▶	認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト 216	代表理事 田川 尚登	神奈川県 東京都	100万円
子どもの家庭での虐待予防に有効な 「ホームスタート」事業の運営 ▶	ワーカーズ・コレクティブ 子育て応援チームすこっぷ(★) *17	代表 北後 真智子	世田谷区	96万円

団体名に(★)印のある団体は、前年からの継続助成です。

リーダーインタビュー

子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願い、地域には温かく思いやりにあふれるさまざまな活動があります。 そのような活動を支え推進する皆さんの熱い思いを伝え、活動の輪を広げたいとスタートしたリーダーインタビュー。 2023年度・2024年度4月までにご登場いただいた5人の皆さまです。



Vol.11 YUMEプラス 関口 清斗さん



Vol.12 Picture This Japan 大藪 順子さん



Vol.13 びじっと・離婚と子ども 問題支援センター 古市 理奈さん



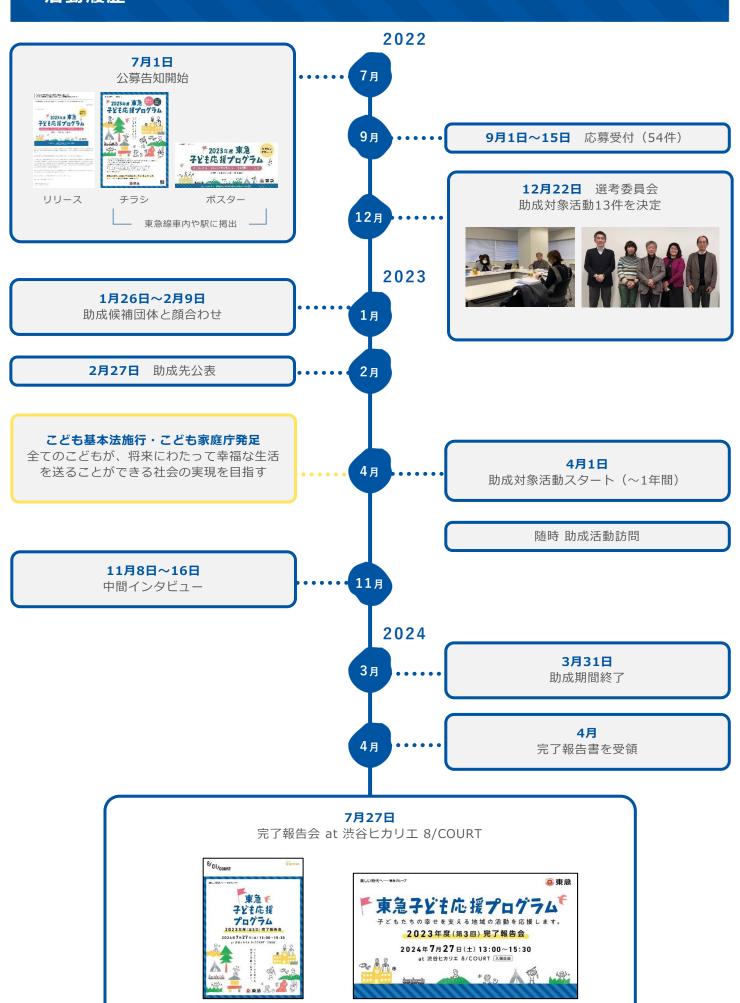
Vol.14 愉音 松本 有理江さん



Vol.15 Sharing Caring Culture 三坂 慶子さん



活動履歴



青葉台みらいクラブ



団体名:NPO法人 あおば学校支援ネットワーク(★)

● 団体紹介

主に青葉区の学校や地域で多様な学 びの機会をつくり、自分らしく生き る子どもたちが育つ社会づくりに努 めています。(設立2005年)

● 助成対象活動の目的と概要

子どもたちが他者との関わりを通じた学びを自分の人生や社会に生かそうとする意欲、 未知の状況に対応する思考力、判断力、表現力の向上を目指し「青葉台みらいクラブ」 として以下の活動を行うことで、地域や企業の認知拡大、居場所としての定着を目指し ます。

- 小学生が地元商店会と連携して地域とのつながりや仕事の楽しさを発見することを 目的とした「子ども商店会」
- 主に高校生が社会とのより良い関係づくりを図ることを目的とした「社会とつながるカフェ」
- 小中学生が地域の大学や企業と連携して課題解決や価値創造力を育むことを目的とした「STEAM教育ワークショップ」

● 助成対象活動の実績

● 「子ども商店会」

青葉台商店会、株式会社ナミックス、NPO法人ちいき未来と連携 商店街での探索と働く体験、疑似経営者となる経営ゲームの実施、動画撮影や編集を学び映像作品の制作、会社訪問など 7月~3月まで10回実施、参加者は青葉区内小学生(4~6学年)24名、高校生(サポート)

● 「社会とつながるカフェ」「Myスペース『ぷらっと』」

駄菓子屋(中川駅前商業地区振興会)と連携

小学生にはゲームや宿題サポート、ドローン体験も実施。中高大学生は、小学生の遊び相手になったり勉強を教えたりする役割を担い、小学生の帰宅後には活動の振り返りをしつつ大人との交流時間を設けた

11月~4月まで7回実施、参加者は幼児、小学生、ボランティアスタッフの中学生~大学生、保護者 定員20名で開催

● 「子ども青葉台会議」・地域の大学や企業とつながる「STEAM教育ワークショップ」

三菱ケミカル株式会社、合同会社RoBO/PCNカワサキと連携

青葉区内の地域交流拠点のイベントスペースなどを活用して、知る(探究)とつくる(創造)のサイクルを生み出す、

分野横断的な学びのSTEAM教育をコンセプトにしたイベントを実施

7月~4月まで6回実施、参加者は延べ小中学生108名、高校生1名、保護者18名









①子ども商店会 働く体験 ②子ども商店会 会社見学 ③映像作品入賞 ④ドローン教室(中学生)

この2年間の成果

さまざまな分野のプロフェッショナルが、子どもを大きく成長させる豊かなコンテンツを生み出して、子どもたちの成長を応援した2年間でした。子どもたちはさまざまな選択の場面で自ら考えて選び、選んだことに責任を持って行動しました。

地域のリソースを活用して進めたことで、地域が安心できるまちであることを子どもたちが認識したこと、子どもを風景の一部ではなく、地域の一員として見ることができる大人を増やせたことも成果となりました。

助成が終わった今、助成がなくても何かやりましょう!とこれまでの協力者の方々とお話ししています。地域の子どもたち! 今後もわくわく期待していてください。

~生きづらさを自分らしく生きるカに~未来まちづくりプロジェクト



団体名:認定NPO法人 キーパーソン 21

● 団体紹介

子どもたちを中心に、地域でいろんな人がつながり合う対話型キャリア教育プログラムの開発・実施・普及などを行っています。大人も子どもも、どんな立場の人も、一人ひとりが必ず持っている、自信を持って自分らしく生きるための自分軸(団体では「わくわくエンジン」と呼びます)で主体的に考え、行動することが当たり前の社会の実現を目指しています。(設立2000年)

● 助成対象活動の目的と概要

さまざまな課題や生きづらさを抱える子どもたちが、自分らしく、わく わくしながら生きる力を育むことを目的に、認定NPO法人フリースペースたまりばと協働し「たまりば×わくわくプロジェクト」に取り組みました。

- 3カテゴリーの居場所において、それぞれの子ども、若者たちに合わせてアレンジした対話型キャリア教育プログラムの実施
- 子ども、若者たちをサポートするスタッフに向けた、自己/相互理解につながる研修

● 助成対象活動の実績

さまざまな課題や生きづらさを抱える子どもたちをわくわくさせるプロジェクトとして、川崎市高津区にある認定NPO法人フリースペースたまりばの運営する下記3カ所において、それぞれの子どもたちの特性に合わせたかたちでキャリア教育プログラムを協同で実施

- 1. フリースペース「えん」
- 2. コミュニティスペース「えんくる」
- 3. 川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」

スタッフミーティング、打ち合わせ

4月~10月 月に2~4回実施

● 活動内容

たまりば×わくわくプロジェクト(たまりばわくわくサポーター研修、すきなものビンゴなど) 7月~3月 全10回 延べ参加人数191名







①クリスマスにわくわくエンジン発見@ブリュッケ ②フリースペースたまりばスタッフ研修記念撮影 ③「すきなものビンゴ」をする子どもたち

この1年間の成果

認定NPO法人フリースペースたまりばの3つの居場所、「えん」(小学生中心)、コミュニティスペース「えんくる」(中高生中心)、川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」で、子ども・若者の皆さんと、スタッフの皆さんと共に「すきなもの」や「楽しかったこと」などを語り合い、わくわくエンジン®を発見する対話型ワークショップを実施しました。教室の集団授業とは異なり、一人ひとりと丁寧に紡ぐ対話プログラムの時間は本当に豊かで、自分を理解し、一歩踏み出す力にしていく姿に強い希望を見ることができました。全国に増えている居場所において、わくわくエンジンのプログラムが役に立てるよう、モデルづくりとして引き続き取り組んでいきたいと思います。

※わくわくエンジン®はキーパーソン21の登録商標です

子どもの『非認知能力』育成フィールド 「街の小さな自然つくり」



団体名:NPO法人 グリーンフィールド

● 団体紹介

生物多様性型緑地の創出と保全する活動を通じ、子 どもの総合力育成事業や大人も含めたヒーリングと 健康回復へ貢献する事業を行っています。地域の自 然資源調査や環境啓発、教育を行い、自然と共生す る調和が取れた環境社会づくりを目指しています。 (設立2017年)

● 助成対象活動の目的と概要

子どもたちの非認知能力や五感機能、情操の育成など、人間としての 基礎となる力の育成とそのメソッドの構築を目指して、小学校の庭園 や地域の公園など、都市の中に生物多様性型の緑地を創出(リメイク 含む)し、植物に触れる体験イベントや「生きものレッスン」などを 行いました。これらの活動を行うことで教育機関や地域とのネット ワークを育み、活動の定着と拡大を図りました。

● 助成対象活動の実績

● 子どもたちや地域の皆さんと行ったさまざまな活動

- ・5月 第三日野小学校:「初夏のフィールドビンゴ」全学年、「夏の花植え」
- ・6月 第三日野小学校:「生きものマイアルバムをつくろう」全学年、 「生きものレッスン・蝶ver.」(座学) 3年生
- ・7月 第三日野小学校:「盛夏の植物スケッチ」全学年、盛夏の花補植
- ・8月 戸越小学校、宮前小学校:「文庫の森」自然遊び・生きもの観察
- ・9月 第三日野小学校:「秋の植物観察1」全学年、 「昆虫と植物の生態にふれ考えてみよう」3学年、「秋の花植え」
- ・10月 戸越小学校、宮前小学校:文庫の森活用・自然遊び開催/「秋を見つけよう」 第三日野小学校:「秋の花植え」「秋の生きもの観察とスケッチ」 自然体験 &「学び」 効果検証
- ・11月 第三日野小学校:「晩秋の生きもの観察」
- ・12月 第三日野小学校:「生きものの冬越しについて調べ・考えてみよう」、 生きもの自由研究エントリー、 「冬の花植え」「春咲球根植付け」
- ・1月 第三日野小学校:「冬の植物はなぜ凍らないか考えてみよう」
- ・2月 第三日野小学校:「早春の新芽はどこだ?」 「自然は`育み'の天才なのさ! 子どもの`育ち'をのばす『学び場』地域の自然」フォーラム開催 基調講演「生物多様性型緑地つくり&地域による保全」ビオトープガーデン提唱者の泉健司先生
- ・3月 第三日野小学校:「春のきざしを観察しよう!」、生きもの自由研究作品発表者 賞状・記念品授与 戸越小学校、宮前小学校:文庫の森活用自然遊び/「春を探そう!」





2023年度 第三日野小学校3年生寄書き



シェアリングネイチャーゲームの様子

この1年間の成果

対象の庭は、草ぼうぼうの荒んだ場所でした。そこを整備して、豊かなバタフライガーデンを造ることができました。月を追 うごとに昆虫の数が増え、蜜を必死で吸う昆虫も、観察会でうれし気にあちこち探索する子どもたちも微笑ましかったです。 また、バタフライガーデン1号で保護したキアゲハが5月~10月まで2回繁殖しました。子どもの非認知能力促進の取り組み は、伸びしろが大きいだろう子どもの手掛かりをつかみました。メソッドをつくれるよう今後も頑張ります。

併せて、この取り組みで地域住民のネットワークへ参加させていただくことの重要性と、長く地域で活動されている方々の人 間力の高さに感動しました。この活動で一番の気付きです。

放課後フリースペース「まい す ペ〜す」、 子育てひろば(赤ちゃんひろば)



団体名: NPO法人 こあら村

● 団体紹介

乳幼児や障がい児のいる家庭に対して、仲間づくりや、助け合いの輪を広げるための広場を提供する事業を通じて、保健・福祉の増進を図り、住みよいまちづくりの推進および子どもの健全育成に寄与することを目指しています。

(設立2003年)

● 助成対象活動の目的と概要

年齢や障がいの有無、性別などに関わらず、地域に暮らす誰もが自由に立ち寄り、好きに過ごし、くつろげる子育て広場の提供を通じて、地域の人がつながる橋渡しをすることを目的に、乳幼児親子向けの「赤ちゃんひろば」と小中学生向けの「放課後フリースペース(遊び場・学習支援)」を開催しました。

● 助成対象活動の実績

年齢や障がいの有無、性別などに関わらず、地域に暮らす誰もが自由に立ち寄り、好きに過ごし、くつろげる子育て広場の 提供を通じて、地域の人がつながる橋渡しをすることを目的に、小中学生向けの「放課後フリースペース(遊び場・学習支援)」と乳幼児親子向けの「赤ちゃんひろば」を開催

● 放課後フリースペース「まい す ペ~す」

- ・小中学生への遊び場の提供
- ・小中学生への学習支援 4月~3月 全36回実施 延べ343名参加
- ・子育てひろば「赤ちゃんひろば」4月~3月 全36回実施 延べ480名参加
- ・夏休みの特別開放日および20周年事業の「こあら村の夏まつり」 〈「開放日」の設定〉



赤ちゃんひろば

利用年齢の制限を設けず実施し、異年齢(0才~小中高生)の子どもたちが自然に関わる機会を創出。赤ちゃんのお母さん方にとっては小中学生が遊ぶ姿を垣間見る機会となり、少し先のわが子の姿に思いを馳せることができたようだった。 〈夏まつりの日〉

手芸の得意なスタッフがどの年齢でも楽しめる工作 (指スタンプ、イラスト描き、ちぎり紙貼り、マーブリング など)を用意し、無料で開催

<宿泊体験>

小中学生からの提案により「こあら村に泊まろう」を実施。 夏休みの特別な体験として、小学生7名、中学生1名が スタッフ3名と共にこあら村に宿泊





①こあら村の夏まつり ②まい す ペ~す

この1年間の成果

東急子ども応援プログラムの助成を受けて、「赤ちゃんひろば」「まい す ペ~す」に安定した人員を確保することができ、活動の定期開催を1年間計画通り実現できました。「赤ちゃんひろば」ではお母さん、お父さんの何気ないおしゃべりや、時には心配ごと、そして赤ちゃんのかわいい姿をスタッフと共有し、「まい す ペ~す」では、小中学生が学校あるいは家庭とは違う居場所として、好きなことをしながらリラックスして過ごしている姿が見られました。助成いただいた事業を継続できたことにより、この1年間に大田区保健所の助産師、区立小学校の教師、児童、地域情報誌の編集委員、大学看護科の先生などのこあら村への見学や取材が増えて新しい出会いも多くあり、活動の幅が広がりました。

新型コロナウイルスの5類への移行に伴い、人々の交流が戻ってきましたが、小中学生の中にはマスクが外せない子どもがいます。不安な気持ちを取り除けるように、赤ちゃんとその家族、子どもたちの誰もが安心して過ごせる場所として、地域の皆さまと協力しながらこあら村の活動を続けてまいります。

地域で多様な子どもと若者が ともに育ち合う場づくり

団体名:認定NPO法人 CFFジャパン



● 団体紹介

「未来の基盤である子どもと青少年と、共に育ち合いながら、その誰もが未来に希望を持てる社会を築くこと」をミッションに掲げ、フィリピン・マレーシア・ミャンマーでの子どもの支援・児童養護施設を運営し、日本から学生対象のボランティアプログラムを実施しています。ボランティアプログラムを通し、世界・社会の課題解決の担い手となる人材育成も行っています。(設立1996年)

● 助成対象活動の目的と概要

世田谷区烏山地域において、多様な子どもが集い、多様な若者が伴走支援することによって、子どもが個々に尊重され、自分(たち)自身で自分(たち)のことが決められる居場所をつくりました。学習支援、イベント活動によって高校生・大学生のボランティアを育成する他、多様な背景を抱えた若者が担い手として社会参画する機会を創出しました。また、ロールモデルとして他の地域の居場所へ波及させることも目指します。

● 助成対象活動の実績

● 地域で多様な子どもと若者がともに育ち合う場「まなカフェ」の運営

原則毎週水曜日16:00~18:00まで。その後19:00まで運営側の振り返りと次週以降の企画 小学校の長期休暇中を除き年間40回実施(+夏休み番外編1回) 活動対象

【①子ども】

世田谷区烏山地域に在住の小学生(烏山北小学校、烏山小学校など):15名とその家庭 行政機関などで見守り中の家庭や子ども、学校で個別の配慮を要する子どもを含む 延べ参加人数407名(1回あたり平均10名)

【② 若者(ボランティア)】

周辺地域の在住・在学者を中心とした高校生・大学生・社会人:36名 通信制や定時制の高校などに通っている生徒など含む延べ参加人数343名 (1回あたり平均8.5名)

● 配慮を要する子どもや家庭への対応

- ・行政と連携しながら、配慮を要する子どもや家庭の受け入れ
- ・隣接するコミュニティカフェと連携しながら家庭の見守り、相談対応

ボランティア研修

- ・子ども支援の記録システム (kintone) をもとにした毎週の振り返りや事例検討
- ・場の運営方法や次の企画立案
- ・児童福祉の基礎、子どもの安全管理、個人情報管理の研修
- ・ぷらっとホーム世田谷と連携した研修

①まなカフェチラシ ②近所の飲食店から提供されるおにぎり ③学習支援の様子 ④卒業するボランティアヘ子どもたちからのメッセージ









この1年間の成果

この活動は小学生の放課後の学習支援活動ではありますが、助成を受けることにより、高校生や大学生を中心とするボランティアが単に人手を補う役割ではなく、子ども一人ひとりに寄り添い、個々が尊重された居場所をどうしたらつくっていけるか、主体的に地域社会に参画する場となるようにコーディネートすることができました。多様な背景やさまざまな困難を抱える子どもや若者を含めて、共に育ち合う場となれたことが成果であり、今後も地域でネットワークを広げつつ継続を図っていきます。

子ども多文化交流事業



団体名: NPO法人 Sharing Caring Culture

● 団体紹介

地域の外国出身者と共に運営し、主に在日歴の浅い子育て中の外国人主婦の社会参加を促しながら、外国人の子育て支援事業や多文化共生促進事業を行っています。外国人親子を中心に文化的な背景が異なる人たちが個性を発揮しながら、協働のもと地域づくりを進めています。(設立2014年)

● 助成対象活動の目的と概要

外国籍や外国につながる子どもたちが母語や母文化、ルーツに誇りを持てるよう、また日本語の能力や国籍に規定されず社会参加し、個々の能力を地域で発揮できるよう、以下の活動を行いました。

- 世界の家庭料理に親子で挑戦する多国籍親子クッキング
- 出身国の行事や文化を紹介する文化体験
- 母語で母国の絵本などを読み聞かせする多言語おはなし会

● 助成対象活動の実績

● 4/24 キックオフミーティング

Cultural Ambassador(文化大使)として、アメリカ、インド、インドネシア、エクアドル、コスタ・リカ、シンガポール、ソロモン諸島、タイ、中国、ナイジェリア、日本、ネパール、ブータン、フランス、ベトナム、マレーシア、ラトビア 計23名登録

● 多国籍親子クッキング

6/11 『インターナショナル・持ち寄りパーティー』 参加児童26名 9/16 『Fusion Cooking 日本のうどん、タイのグリーンカレー、インドのチャイの旅』 参加児童14名

● 世界の文化体験 My Country Day

5月~3月 8回開催 参加児童延べ175名(アメリカ、イギリス、インド、インドネシア、カナダ、コスタ・リカ、シンガポール、スウェーデン、ソロモン諸島、タイ、中国、ドイツ、日本、ネパール、フィリピン、ブラジル、ベトナム、マレーシアの子どもたちが参加)

● 多言語おはなし会

5月~3月 4回、9カ国語で開催 参加児童延べ48名

● 青葉区キッズタウンイベント『チェッチェーノ・チッタ2024』出店

3/2 たまプラーザ「美しが丘公園多目的広場」で開催 来場者数:約3,000名 国際交流センター、インターナショナルマルシェへの出店(インド、インドネシア、エクアドル、タイ、マレーシア、ラトビアの商品販売)、子どもたちへの販売体験、民族衣装(インド、インドネシア、エクアドル、マレーシア、ラトビア)体験コーナーの設営







①インドボリウッドダンス ②世界のお祭り ③多言語おはなし会

この1年間の成果

15回にわたる子ども多文化交流事業を実施できたのは、本助成のおかげです。数多く開催することで、当団体の活動に興味を持ち、母国の文化を伝えたいという外国出身者が集まった他、東急線沿線での助成プログラムのチラシを見てサポーターになりたいとお問い合わせを頂くこともあり、人的リソースが増えました。コロナ禍で停滞気味だった活動が一気に花開いた1年でした。今後はプログラムを見直し、より人権教育や多文化理解教育としての要素を持った内容に組み立て直したいと考えています。

キッズディレクター (楽しいデジタルコンテンツ制作と居場所づくり)

団体名: NPO法人 ちいき未来(★)

● 団体紹介

横浜市において地域の活性化に寄与することを目的とし、都市と中山間地域の交流による地域活性化支援事業、市民・青少年に向けて多様なカルチャーをツールとした地域コミュニティーづくり事業などを行っています。(設立2017年)

● 助成対象活動の目的と概要

不登校など困難を抱えた状況にある子どもたちに向け「キッズディレクター」サークルを開設し、映像ワークショップやプログラム学習を行いました。自ら創造した作品や思いを社会に発信することを楽しむことで自己肯定感を高め、共同の意識をつくり、子どもたちが前に進むための居場所となることを目指します。今年度は映像関係の専門学校生や教育関係者との連携をより強化し、学校のサポーターとして活動を広げました。

● 助成対象活動の実績

- 子どもの居場所「キッズディレクター」サークル
 - ・映像ワークショップ 不登校の児童を中心に映像制作を実施。4月~3月 全28回実施 延べ94名参加
- 個別支援級や保健室登校の子どもたちへの映像授業 5月~2月 全19回実施 延べ336名参加













①キッズディレクター募集チラシ ②映像授業のお礼メッセージ ③④⑤・映像制作や「キッズディレクター」サークル活動の様子

この2年間の成果

東急子ども応援プログラムの助成を得られたことで信頼性が担保され、他の機関との連携ができました。NPO法人は、コンビニ店舗数を越してきましたが、まだ社会的な認知は低い状況がありますので、この助成によって団体としてのブランディングが高まりました。また、iPadなどの撮影機材の獲得によって、活動が大きく変化しました。簡便に映像制作を子どもができることで、口コミで多方面からの依頼が増えました。このようなことから特別支援級の授業を行うことになり、新しいGIGAスクールのサポートへ結び付きました。

今後も学校連携を広げて、特別支援級のコンテンツを含めた授業内容を確立し、さらに、配信できるサイトを作成して多様な映像ワークショップを全国に発信していきます。

障害のある子もない子も一緒に。 <u>目と手で喋ろう!音で作ろう!</u>耳で見て語らおう!!

団体名:一般社団法人 DRIFTERS INTERNATIONAL



● 団体紹介

障がい・国籍・性別・世代を超えてアートと観客の接点を生み出すことを目的に、さまざまな業界の専門家が企画・運営し、文化芸術発信事業(公演、ワークショップなど)を行っています。福祉の視点からアートに取り組むのではなく、最先端の芸術作品を障がい者や子どもなど多様な観客に届けることを特徴としています。(設立2009年)

● 助成対象活動の目的と概要

大田区池上の商店街を中心に、アートによる共創活動を通じて障がいのある子とない子をつなげ、多様な視点や気付きをもたらすアートワークショップを実施しました。使い慣れたコミュニケーション手段以外の方法で創作活動を行うことで、多様性を尊重したコミュニケーションカ、発想力、表現力が向上し、障がい児と健常児の格差や分断のない共生社会の実現を目指します。

● 助成対象活動の実績

● おんがくかといっしょにあそぼう! - 参加型演奏会「PLAY? - あそぶ?おとをだす?」プレワークショップ -

4/29 参加者:10名

障がいや楽器演奏の経験の有無に関係なく、誰もが一緒に参加できる演奏会の実施を目指し、プロトタイプの演奏会を 体験するワークショップ

● 新人Hソケリッサ!ワークショップ+野外リラックスパフォーマンス

ワークショップ: 12/2、12/3、パフォーマンス: 12/9 参加者: 17名 公園での観客: 200名 障がいのある人もない人も、さまざまな生活、価値観を持った人たちが混ざり合いながら、参加する人々が自らの感性で作品を捉え、気付きを得ることを目指し、それぞれの身体から生み出される表現を2日間のワークショップを通して体験。後日、会場の横にある普段から子どもが多く利用する公園にて発表

ミるミる見るツアー

3/17 参加者:5名

10代~学生の視覚障がい者と晴眼者が、一緒に映像作品を鑑賞し、対話を通して、見えない人のものの見方と見える人の 見ている風景を互いに語り合いながら、「見る」ということの多様性を発見するワークショップ。視覚障がいのあるファ シリテーターが鑑賞をガイドすることで、多様な見方があることを深掘りする対話型プログラム







①②③「おんがくかといっしょにあそぼう!ー 参加型演奏会 $\mathbb{P}\mathsf{LAY}$? ーあそぶ?おとをだす?』プレワークショップ」の様子

この1年間の成果

音やダンス・対話など、さまざまなコミュニケーション方法で障がいのある子もない子も共に創作に取り組めるワークショップを展開してきました。ファシリテーションを担当するアーティストと目的の共有を行いながら進めていけたことで、アーティスト自身も表現や創造のメソッドを子どもたちに伝え育てていく、という意識を持ってくださり、参加する子どもたちにとって充実したプログラムを実施することができました。

今後も多様性を重視する昨今の社会で求められている個々を尊重したコミュニケーション力や発想力・表現力などの能力を楽しく身に付けられるようなプログラムを開発・展開していきたいと思います。

横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

団体名: Picture This Japan (★)

● 団体紹介

写真をツールとした自由な表現活動を通して、人 生に必要不可欠な自己肯定感を参加者自ら育成す ることを目的に活動しています。また一般社会で の多様性に対する理解を深め、抱擁できる社会を 目指し、マイノリティーと呼ばれる人たちの世界 と届けにくい声を内側から可視化し、相互理解の ためのさまざまな機会を提供しています。

(設立2018年)

● 助成対象活動の目的と概要

言語にとらわれない写真というツールによって、外国につながる子ど もたちの生きる力や自己肯定感の向上を目的とした表現活動や居場所 の提供、写真展の開催などを行いました。2022年度に開設したオン ラインギャラリーが、当事者としての目線で運営し活躍できる場とな り、また、プロジェクト卒業生や有志中高生による作品をロールモデ ルとして掲載し可視化することで、外国につながる子どもたちの希望 となるプラットフォームへと発展させました。

● 助成対象活動の実績

オンラインギャラリーコラムニスト会議

「The Platform for Visual Story Telling through Diverse Visions(多様な視点から発信するビジュアルストーリー プラットフォーム)」の活用として、多様なバックグラウンドを持つ若者たちの体験談や現在取り組んでいることなどを コラムとして文章と写真で発信。2023年度の新しい作品もギャラリーに掲載。通訳・翻訳士や新聞記者から講習を受け たことで、それらの仕事の大切さだけでなく難しさも実感し、これからのチャレンジへと変えていきたい。 4月~3月 全13回実施

● 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

- ・ワークショップ 8月~12月 全8回開催、中高生の参加者13名 参加者がつながる国:台湾、バングラディッシュ、ラオス、アメリカ、シンガポール、日本、中国、朝鮮 ゲストスピーカー:映画監督 川添ビイラルさん(生まれと育ちが神戸のパキスタンと日本のダブル)
- 写真展

2022年度作品ミニ展示 7月みなみ多文化共生ラウンジ、8月なか区民活動センター、9月済生会横浜東部病院 2023年度新作展 1/12~21 象の鼻テラス、1/23~31 あーすぶらざ、2/24~3/31 横浜市青少年育成センター

・写真展オープニングイベント

1/13 象の鼻テラス







①象の鼻テラス写真展 ②プロジェクト参加中高生とボランティア ③ワークショップの様子

この2年間の成果

一番の成果は、やはり中高生の作品の面白さです。今年度は全体的に黒が目立つ作品が多かったのですが、必ずしも暗いもので はなく、水たまりに写る雲が世界地図のように見えたり、兄弟がソファーの上を飛び跳ねていたり、電線の隙間から曇り空を見 上げていたり、トンネルの向こうの光や他の誰も気付かない夕焼けを写真に収めていたりと、感性豊かな中高生の世界観がその まま写り込んでいて興味深かったです(これらの作品はオンラインギャラリーでご覧いただけます)。

もう一つの成果は、プロジェクト卒業生がボランティアとして戻ってきただけでなく、ウェブサイト運営をしたり、地域の外国 につながる小学生支援にもボランティア参加したりと、これからを担う人材が育っていることが実際に見えたことは、何よりも うれしかったです。

子どものための神奈川面会交流促進事業

団体名:一般社団法人 びじっと・離婚と子ども問題支援センター



● 団体紹介

「10年先の子どもの未来を見据え 今を支援する。」という ビジョンのもと、離別家庭の子どもたちが10年後に自身の 力で力強く生きていくための心を育む面会交流 支援活動を 実施しています。(設立2007年)

※面会交流 面会交流とは、子どもと離れて暮らしている父母の一方が子どもと定期的、継続的に、会って話をしたり、一緒に遊んだり、電話や手紙などの方法で交流することをいいます。(法務省)

● 助成対象活動の目的と概要

横浜と川崎を、全国に先駆けて「面会交流が当たり前」の街にすることを目的に、離別した親子の面会交流に必要な支援をワンストップで提供する総合窓口とウェブサイトを立ち上げ、活動の認知度向上を図るとともに、行政と連携した仕組みづくりを行いました。

● 助成対象活動の実績

● 親子交流支援

神奈川県民の利用24名

かながわ面会交流総合相談窓口「ペアレントタイムかながわ」の設立

- ・「神奈川面会交流支援団体連合会」を設立、窓口要員業務手順作成、窓口要員教育実施、 利用者向け「神奈川の面会交流支援団体」資料等作成
- ・相談窓口ー支援団体連携プロセス作成
- ・定例会議実施 さまざまなケースの確認、自治体連携、在日外国人対応から法制度対応など全11回
- ・相談要員の教育プログラム開発と研修
- →相談要員向け教育コンテンツを開発し、育成対象スタッフを選別。5名を相談スタッフとして増員
- 「ペアレントタイムかながわ」 (https://parent-time.com)を開設、窓口業務・相談業務開始 相談窓口と並行して当事者オンラインコミュニティーを継続中。現在95名が参加
- 行政機関に総合相談窓口のチラシ設置



①びじっとチャンネル(YouTube) ②自助的コミュニティーグループの様子 ③ペアレントタイムかながわ・トップページ

この1年間の成果

支援団体連合会のホームページとパンフレットを作成して行政とつながれたこと、市民に面会交流支援団体の存在を知ってもらい、悩む当事者が相談や支援につながったことが本活動の一番の成果です。

当初計画していなかった当事者の自助的コミュニティーグループを手探りで開設・運用したところ、当事者同士で話すことで 異なる立場を尊重し、自身と向き合い気付きを得る場となり、必要性を強く感じました。加えて、利用者のニーズを知るため のデータ収集、子の福祉のための親教育プログラムや支援卒業プログラムをつくる必要性も明確となり、やれることがたくさ んあると痛感しています。

より適切な支援を届けることがこの国の子たちの心を豊かにすると信じ、活動していきます。

みつけ!愉快な音楽・畑くらぶ: 子どもの五感を育むプロジェクト

団体名: 愉音(★)

● 団体紹介

目の前で素晴らしい演奏を聴くことで感じる驚きや喜び が子どもたちの人生を豊かに育むことにつながると信じ、 SDGsの理念のもと「0歳からのバリアフリーコンサー ト」や「音楽遊びの会」などを行っています。バリアフ リーの参加型音楽体験を通して、心身の健康や地域のつ ながりに厚みを増すきっかけづくりを行っています。 (設立2018年)

● 助成対象活動の目的と概要

新型コロナウイルス感染症と共に歩む社会にあっても子どもたち が音楽への興味を育み、心豊かな時間を持つ機会を創出するもの です。音楽と畑をキーワードに地域の人々の活動への参加を促し て、地域全体の幸福感の向上に寄与することを目指します。 2022年度の戸外での活動場所であった「田んぼ」を畑に移し発 展させ、「みっけ!」たことを言葉で表現する「ハイクで俳句」 など、楽しさに出会い成長し、地域の多様な大人たちとつながっ ていくことを促進するプログラムを行いました。

● 助成対象活動の実績

「畑で遊ぼう」

5月27日(土)鴨志田地域ケアプラザ参加者数:23家族54名

6月17日(土)下谷本の農家 内野さんの畑でじゃがいもと人参の収穫 参加者数:33家族91名

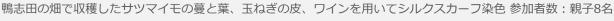
6月24日(土)都筑ハーベストの畑で丸々と太った玉ねぎをたくさん収穫参加者数:7家族23名 10月28日(土)鴨志田地域ケアプラザの畑でサツマイモの収穫参加者数:17家族41名

● 「ハイクで俳句」

4月30日(日)に鶴間公園と南町田こどもクラブ「つみき」、南町田会館で実施予定でしたが 天候不良のため中止。5月、6月の畑活動で用紙を配布する形で実施。

● 「サツマイモの蔓で染色体験」

10月13日(金) 鴨志田地域ケアプラザ 講師:加藤良次先生



● 「ハロウィンお絵かき&撮影パーティー」

10月14日(土) 鴨志田地域ケアプラザ

絵画・工作・音楽遊びと盛りだくさんの楽しいパーティー 参加者数:8家族18名

● Let's come together! 0歳からのバリアフリーコンサート

- ・「みっけ!オープニングコンサート」5月9日(火)実施場所:フィリアホール 参加者数:午前の回18家族40名、午後の回25家族59名、夜の回5家族12名
- 「夏のコンサート」

8月23日(水)実施場所:フィリアホール 参加者数:31家族81名 5つのコンサートの他、楽器制作、楽器体験、レクチャーなどのイベントも実施

「地域のみんなもアーティスト」コンサートでは「みっけ!」参加者も舞台で演奏し、集団での音楽遊び発表も実施



12月22日(金) 実施場所: 男女参画センター横浜北アートフォーラムあざみ野レクチャールーム 参加者数:午後の回15家族36名、夜の回4家族8名



Let's come together! 0歳からのバリアフリーコンサート

じゃがいも収穫

この2年間の成果

それまで「Let's come together! 0歳からのバリアフリーコンサート」や「音楽遊びの会」といった音楽ホールや屋内での活動 を行っていた愉音が、東急子ども応援プログラムの助成を頂くことで田んぼや畑に子どもたちと出掛ける企画を実施できました。 食べるもので身体ができていくように音楽は心を育む大切な栄養。そして自然の恵みを子どもが五感全体で享受し、子どもが自 ら「みっけ!」と心の中で喜びと共に叫ぶような体験が子どもの生きていく力を育むと感じています。2年間の活動を通じて得 られた知見をもとにこれからも活動を発展させてまいります。

生命にかかわる子どもと家族に 豊かな時間を届ける



団体名:認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト

● 団体紹介

LTC (生命にかかわる病気) の子どもやきょうだい・家族が、家庭的な環境の中で豊かな時間を過ごし、喜びも悲しみも共に分かち合い支え続けるコミュニティー型「こどもホスピス」の運営と広報啓発事業、小児緩和ケアの普及と人材育成事業を行っています。(設立2017年)

● 助成対象活動の目的と概要

自然あふれる環境に設立された「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」は、LTCの子どもと家族が自宅や病院以外に過ごせる「第2のおうち」です。このこどもホスピスにおいて、家族との時間を安心して過ごし、豊かな時間を提供する活動を行いました。また、生き生きとした子どもたちの写真を通してこどもホスピスの日常を紹介する「うみそら写真展」の開催と講演会の動画配信を行いました。

● 助成対象活動の実績

● 「うみとそらのおうち」で、LTCの子どもと家族にとって安心して過ごせる居場所と豊かな時間の提供

2023年度の利用者数は、イベント利用も含めて延べ910名(昨年724名)、ご利用家族数は239家族(昨年209家族) 宿泊利用は20家族

● 300枚近い写真を展示した「うみそら写真展」

11月21日~23日開催 写真展来場者2日間で310名(大人230名、子ども80名)

11月21日 オープニングイベント: 斎藤守也さん(from レ・フレール)によるピアノコンサート

11月22~23日 ちいさなマルシェ・レモネードスタンド(お庭)

ボランティア・グリーフカフェに参加されている遺族によるマルシェとレモネードスタンドを開催

11月23日 ・神奈川県立こども医療センター職員を中心とした「Swing for Kids」による演奏会

11:30~、16:00~、2回開催(お庭)

・こどもマルシェ(室内)

利用者の子どもたちが手作りの品を販売

● 講演会・セミナーの開催

・オンライン企業セミナー「企業とのあゆみ、今できること」 11月9日 19:00~20:30 (zoom配信) 参加者:40名

・医療向けセミナー「こどもホスピスのいま~地域における小児緩和ケアの実践~」

11月23日 13:30~16:00

場所:関東学院大学 室の木キャンパス6号館

参加者:会場37名 オンライン58名





①うみそら写真展 ②写真展展示用写真(お庭のブランコにて)

この1年間の成果

「横浜こども木スピス〜うみとそらのおうち」は、病気であっても子どもが子どもらしく生き生きとした時間を過ごせる「第2のおうち」として家族の時間を支える活動を行っています。

しかし、まだ「こどもホスピス」の認知度は低く、私たちの活動を広く知ってもらうために、今年度は2周年記念イベントとして、永続的なこどもホスピスの運営にとっては欠かせない企業の力と医療者の理解を目的としたセミナーと、施設を開放して2回目となる「うみそら写真展」を開催しました。対象となる利用者さんに必要な情報が届くように、一人でも多くの利用者さんを迎えられるように、今後も継続的に続けていきたいと考えています。

子どもの家庭での虐待予防に有効な 「ホームスタート」事業の運営



団体名:ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこつぷ(★)

● 団体紹介

子どもが安心してのびのび育つには、子育て時 期に親が心身ともに余裕があり子どもといるこ とが楽しいと思えることが大切だと考えていま す。親子サロンや一時保育、家庭訪問型子育て 支援「ホームスタート」などを行い、世田谷の 「地域の親」として子育てを応援しています。 (設立2009年)

● 助成対象活動の目的と概要

世田谷のすべての子どもが親から虐待されることなく健全に育つこと を目指し、家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」を行います。孤 立やコロナ禍で必要性が高まる中、育児に不安や困難を抱える家庭一 つひとつに丁寧に訪問できるよう認知拡大と運営の安定化、ホームビ ジターの養成・スキルアップを図るものです。オーガナイザーを増や し、世代交代に向けた体制整備も進めました。

● 助成対象活動の実績

ホームスタートの認知向上

・チラシを3種(①ホームスタートについて ②ホームスタート説明会・ビジター養成講座 ③子育て支援講座)作成し、 おでかけひろばを始めとする子育て支援関連の公共機関などに送付することで、以前の手配りでは行き届かなかった地 域にも広報可能となった。また保険福祉センター健康づくり課の保健師さん、世田谷区地域子育て支援コーディネー ターへの認知向上に努めた結果、利用者数増加につながった。

訪問家庭数 30家庭

● ホームスタート説明会実施

9/12 受講者4名

利便性の向上

新しい問い合わせ・申し込み窓口として公式LINEを新設

● 講座や研修会の開催

- ・ホームビジター養成講座 10/3~11/28(計37時間)開催(ビジター数24名)
- ・ビジタースキルアップ研修

1/16「世田谷区の今のママたちの暮らしや気持ちを知ろう」参加者:10名

3/4「少年犯罪の背景からみえた地域でできること」参加者:19名

内部事例検討会を2回(12/22:参加者6名 2/23:参加者5名)

ホームスタートジャパン研修への参加

(5/26・27 ホームスタートジャパン総会&スキルアップ研修、

6/30 ホームスタート東京協議会総会、7/8・9 関東エリア総会オーガナイザー研修、

11/25「0才から2才児のコミュニケーションスキルアップ講座」)

ホームスタートを継続するためのオーガナイザー増員

ホームビジターから2名、オーガナイザー養成講座を修了 2023年度下期よりオーガナイザー4名で活動



スキルアップ研修講座内容



ホームスタート説明会

この2年間の成果

今までもいろいろな助成金に助けられて運営してきましたが、東急子ども応援プログラムは、人件費を含むところが大きく違い ました。無償に近い働き方をしていましたが、少しでも人件費が出せることでオーガナイザーを増やす計画も達成できました。 オーガナイザーの養成講座費用も予算立てできてお声掛けしやすかったです。利用者から「利用してよかった」「ありがたかっ た」とお声を頂くたびに、何とか活動を継続していかなくてはと思うところです。

プログラム概要

子どもは一人ひとり多様な可能性を持っています。

しかし、慌ただしい生活時間や限られた人間関係の中で、可能性の芽がのびのびと育ちにくい環境があり、 さらには、いじめ、引きこもり、家庭内暴力、経済的に困窮する家庭状況や、 不安や困りごとなどを抱えている子どもたちもいます。

地域には、そうした子どもたちをサポートする、家庭や学校以外での大人たちの活動があり、子どもたちや家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりをサポートしています。 このプログラムでは、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願って、 皆さまの活動を支援します。

助成対象となる活動

子どもを取り巻く社会課題の解決を目指し、子どもたちの幸せを支える地域の活動

活動例

1.子どもが安全で安心できる場を提供する活動

- ・居場所づくりや子ども食堂などの活動、シェルター活動
- ・コロナ禍の環境変化により生きづらさを抱えた子どもたちの支援に関わる活動 など

2. 障がいや難病とともに暮らす子どもと家族を支援する活動

・外出支援の活動、入院児の学習支援の活動、きょうだい支援の活動 など

3.外国にルーツを持つ子どもたちの支援や多文化共生を目指す活動

・日本語学習サポート、進学支援、キャリア教育、 日常生活に関する情報提供サポート(例「やさしい日本語」の活用) など

4.子どもの「生きる力※」の向上につながる活動

※困難な環境でもしなやかに生きていく力、子ども自ら好奇心を持って考えて行動していく力

・文化・芸術・スポーツなどを通じて生きづらさや困難を乗り越え、生きる力を育む活動、 地域や社会を知る活動、自然を体験して遊び学ぶ活動 など (塾や習い事を除く)

5.子どもたちの安全・安心な暮らしを支えるコミュニティーをつくる活動

・支援者育成、ボランティア育成、ネットワーク支援、普及啓発活動など

6.その他、本プログラムの趣旨に合致する活動

※本プログラムでは、活動の発展やステップアップにつながる取り組みを期待します。

※本プログラムは2年間の継続助成が可能です。

助成対象となる団体

- ・民間非営利団体であること。法人格は問いません (特定非営利活動法人、一般・公益法人、任意団体など。任意団体の場合は会則があり、「人格のない社団」 の成立要件を満たしていること)
- ・助成対象となる活動地域が東急線沿線の市区内*にあること(主たる事業所はそれ以外でも構いません) **東京都:品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・町田市 神奈川県:横浜市神奈川区・西区・中区・港北区・緑区・青葉区・都筑区 川崎市 中原区・高津区・宮前区 大和市
- ・応募締切日(2022年9月15日)に団体設立後2年以上の活動実績があること
- ・団体のホームページやSNSなどで活動や団体概要が公開されていること
- ・助成開始後、報告書の提出や報告会などへの出席に同意すること
- ・団体の目的や活動が政治・宗教などに偏っておらず反社会的勢力とは一切関わっていないこと

助成期間・助成額・応募受付期間

助成期間 2023年4月~2024年3月(1年間)

助成額

1件あたりの助成額:50~100万円(合計10件程度に助成予定)

応募受付期間 2022年9月1日(木)~9月15日(木)必着

選考

選考委員会による書類選考を行います。選考委員会は、学識経験者、NPO実務経験者、主催企業担当者で構成します。

1 選考委員会

◇ 選考委員長

木下 勇 大妻女子大学 教授/千葉大学 名誉教授・グランドフェロー

◇ 選考委員

- ・岩田 美香 法政大学 現代福祉学部 教授
- ・桑子 敏雄 一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ代表理事/東京工業大学 名誉教授
- 認定特定非営利活動法人 びーのびーの 副理事長・事務局長
- ・中村 恒次 東急株式会社 社長室ESG推進グループ 統括部長 (所属は選考委員会当時のもの)

2 選考基準

- ①プログラム趣旨との適合性 子どもたちを取り巻く現在の課題に向き合い、子どもが安全・安心で心豊 かに暮らせる生活環境づくりにつながる活動か
- ②子どもの視点 子どもの人権と主体性を尊重し、子どもの視点に立った活動か
- ③実現可能性 目的、目標と計画が具体的で、スケジュール・体制・予算が適切か
- ④地域性 活動対象地域の課題と現状の把握に基づき、地域の関係者と連携し、地域に根差した取り組み が期待できるか
- ⑤継続性 助成期間終了後も継続的な活動が期待できるか
- ※以下は本プログラムの2022年度助成対象の団体が継続して応募する場合のみ
- ⑥**発展性** 助成1年目の活動を踏まえて、活動の内容に発展や展開が期待できるか

主催・協力団体

主催:東急株式会社

企画・運営協力:特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

事務局後記

助成対象団体の皆さま、活動を支援・参加してくださった皆さま、1年間ありがとうございました。活動視 察や中間報告、リーダーインタビューなどを通して、皆さまの地道な活動が子どもたち一人ひとりが望む 「幸せ」につながっていることを実感しております。

本プログラムの意味は、子どもたちを支える「温かい思いやりの輪をつくり広げる」ことと考え、今後も 助成金による支援にとどまらず、皆さまの活動を広く告知するとともに、皆さまがつながれるよう支援し てまいります。引き続きよろしくお願いいたします。



子どもたちの幸せを支える地域の活動を応援します。

東急株式会社 社長室 政策グループ 東急子ども応援プログラム事務局

〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5-6 Email: kodomo@tkk.tokyu.co.jp

発行:2024年7月



東急子ども応援プログラムHP